外部評価（研究活動）結果報告書（抜粋版）

令和８年６月

独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
運営委員会外部評価部会

目　次

１．外部評価（研究活動）結果の概要について・・・・・・・・・・　１

２．令和７年度外部評価対象研究課題一覧・・・・・・・・・・・・・　４

３．総合評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６

１．外部評価（研究活動）結果の概要について

外部評価（研究活動）結果の概要について

令和８年６月
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
運営委員会外部評価部会長
一　木　　薫

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所運営委員会外部評価部会では、研究所の研究活動の改善向上に資するため、令和７年度の研究活動の成果等に関する評価を行った。

評価に当たっては、運営委員会で決定した「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の外部評価（研究活動）における評価項目等について」に基づき、評価の観点や評価方法を明確にした上で、委員による研究成果報告書等の書面審査及び部会による検討を行い、最終的な評価結果を得るに至った。

以下にその概要を報告する。

１．評価体制について

外部評価部会の委員は、大学の研究者、学校関係者、特別支援教育センター関係者及び医療福祉関係者によって構成される。その選定は、次の手続きにより、専門分野（感覚障害、発達障害等）のバランス等にも考慮して行われた。

（１）運営委員のうちから運営委員会会長が指名する者

（２）運営委員以外の外部有識者のうちから理事長が委嘱する者

２．評価の対象について

評価対象は、最終評価として、重点課題研究４課題、障害種別特定研究１課題の計５課題である。

評価対象の研究種別は次のとおり。

・重点課題研究：障害種の枠を超えて、国の特別支援教育政策の推進に寄与する研究、又は教育現場等の喫緊の課題解決に寄与する研究

・障害種別特定研究：各障害種における、国の特別支援教育政策の推進に寄与する研究、又は教育現場等の喫緊の課題解決に寄与する研究

３．評価方法について

対象の研究課題について、研究実施計画書、自己評価票及び研究成果報告書を資料とし、研究課題の特性、障害種・教育の場を考慮し評価者を選定し分担する形をとった。

（１）観点ごとの評価

評価に当たっては、「独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の外部評価（研究活動）における評価項目等について」で定めた様式（別紙）に基づき、「研究課題の意義」「研究の達成状況」「研究の成果」「研究成果の活用可能性」の４項目について、５段階で評価した。

（２）総合評価

前記の観点ごとの評価を踏まえ、総合的な評価（総合評価）を５段階で行うこととした。

４．評価結果について

今回評価した５課題の総合評価は、５段階評価において、Ａ$^{+}$評価（大変優れている）とされた課題は４課題、Ａ評価（優れている）とされた課題は１課題という結果であった。

（研究課題の内訳）

（１）重点課題研究（４課題・・Ａ$^{+}$：３課題、 Ａ：１課題）

①Ａ$^{+}$評価となった課題

・多様な教育的ニーズのある子供の学びの場の充実に関する研究－通常の学級に在籍する子供への指導・支援に焦点を当てて－
・共生社会の担い手を育む教育に関する研究－障害理解教育の検討を中心に－
・障害のある児童生徒のキャリア教育の充実に関する研究

②Ａ 評価となった課題

・特別支援教育に係る教育課程の基準等に関する研究

（２）障害種別特定研究（１課題・・Ａ$^{+}$：１課題）

Ａ$^{+}$評価となった課題

・肢体不自由教育におけるＩＣＴの活用に関する研究

５段階の評点	Ａ$^{+}$	（５点）：大変優れている
	Ａ	（４点）：優れている
	Ｂ	（３点）：概ね良好である
	Ｃ	（２点）：やや劣っている
	Ｃ$^{-}$	（１点）：劣っている

重点課題研究４課題については、Ａ$^{+}$評価は３課題、Ａ評価は１課題となった。
総合評価がＡ$^{+}$となった研究では次のような評価があった。

・　多様な教育的ニーズを有する児童生徒への指導・支援の在り方という極めて重要な課題について、「４観点 22 項目」により環境設定の指標を提示した点に大きな意義が認められる。通常の学級を含む現場の実情に即した内容であり、教育委員会及び学校の具体的取組に資する研究である。
（「多様な教育的ニーズのある子供の学びの場の充実に関する研究－通常の学級に在籍する子供への指導・支援に焦点を当てて－」）
・　共生社会の形成に資する研究として、障害理解教育の現状と課題を整理し、共生社会の担い手を育むためのガイドを作成した点に意義がある。全国調査に基づく提言や、通常の学級における実証的成果は具体的な活用可能性が高い点も高く評価できる。
（「共生社会の担い手を育む教育に関する研究- 障害理解教育の検討を中心に- 」）
・　キャリア・パスポートを教育的プロセスとして位置付け、各種調査により実態及び指導の工夫を具体化した点に大きな意義がある。意思決定支援の観点を踏まえた先進的研究であり、児童生徒の社会参加の促進にも資する実践的効果がある点も高く評価できる。（「障害のある児童生徒のキャリア教育の充実に関する研究」）

また、障害種別特定研究「肢体不自由教育における ICT の活用に関する研究」の総合評価はＡ$^{+}$であった。
本研究は、肢体不自由教育における ICT 活用の現状及び課題を体系的に整理し、実践的知見を提示した点で高く評価できる。事例やガイドを通じて活用の方向性を具体化しており、学校現場における ICT 活用の推進に大きく寄与する研究である。

５.総括について

上記のとおり、５課題のうち４課題でＡ＋の評価、１課題でＡ評価であることから、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所においては、国の特別支援教育施策の推進及び教育現場における喫緊の課題の解決に資する研究が高い水準で実施され、優れた成果が着実に挙げられていると評価できる。これらの研究成果は、特別支援学校及び特別支援学級にとどまらず、研究課題に応じて小・中学校等へも積極的かつ効果的に公表・普及され、学校現場で広く活用されることを期待したい。

２．令和７年度外部評価対象
研究課題一覧

令和7年度外部評価対象研究課題一覧

	研究チーム・研究代表者	研究期間	研究種別	研究課題名（研究の主たる類型）
1	教育課程チーム 武富博文	令和5年度～ 令和7年度	重点課題研究	特別支援教育に係る教育課程の基準等に関する研究（ア）
2	学びの場チーム 井上秀和	令和5年度～ 令和7年度	重点課題研究	多様な教育的ニーズのある子供の学びの場の充実に関する研究－通常の学級に在籍する子供への指導・支援に焦点を当てて－（ア）（イ）
3	共生社会チーム 久保山茂樹	令和5年度～ 令和7年度	重点課題研究	共生社会の担い手を育む教育に関する研究―障害理解教育の検討を中心に―（ア）（イ）
4	キャリアチーム 小澤至賢	令和6年度～ 令和7年度	重点課題研究	障害のある児童生徒のキャリア教育の充実に関する研究（ア）（イ）
5	肢体不自由ICTチーム 吉川知夫	令和5年度～ 令和7年度	障害種別特定研究	肢体不自由教育におけるICTの活用に関する研究（イ）

○研究の主たる類型　　…ア　国の特別支援教育政策の推進に寄与する研究
　　…イ　教育現場等の喫緊の課題解決に寄与する研究

３．総合評価のまとめ

○重点課題研究

研究課題（研究の主たる類型）	総合評価	評価結果のポイント
特別支援教育に係る教育課程の基準等に関する研究（ア）（令和５年度～令和７年度）	A	インクルーシブ教育システムの充実を視野に、特別支援学校及び通常の学校双方における教育課程の在り方やその連続性に関する実態を明らかにするとともに、カリキュラム・マネジメントや特別の教育課程の編成に関する重要な示唆を提示した点で意義深い研究である。また、次期学習指導要領改訂を見据えた研究成果の提示や、多様な学びの場での活用可能性、関係機関との連携を通じた研究推進の点も高く評価できる。 以上より、総合評価として優れていると判断される。
多様な教育的ニーズのある子供の学びの場の充実に関する研究－通常の学級に在籍する子供への指導・支援に焦点を当てて－（ア、イ）（令和５年度～令和７年度）	A＋	通常の学校における多様な教育的ニーズを有する児童生徒への指導・支援の在り方という極めて重要な課題について、「共に学ぶ」理念の実現に向けた環境設定の在り方を「４観点 22 項目」という分かりやすい形で整理・提示したことは大変意義深い。また、小・中学校、とりわけ通常の学級での指導・支援に焦点を当てた研究として現場の実情に即しており、教育委員会や学校における具体的取組の指標として有用である。さらに、分かりやすく整理された研究成果や実践事例により、各学校が取組の方向性を把握しやすく、実践に直結する研究である点も高く評価できる。 以上より、総合評価として大変優れていると判断される。
共生社会の担い手を育む教育に関する研究－障害理解教育の検討を中心に－（ア、イ）（令和５年度～令和７年度）	A＋	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築に資する研究として、障害理解教育の検討を中心に現状と課題を整理し、その成果として作成された共生社会の担い手を育むための「ガイド」を提示した点は大きな意義を有する。本研究の成果は、共生社会の実現に向けて、学びの中で多様性を理解・尊重する態度を育成する教育活動の展開に寄与し得るものである。また、全国規模の調査に基づき国の方向性を示す提言を行った点や、通常の学級を対象とした実証的・実践的成果として具体的な活用可能性を示した点も高く評価できる。 以上より、総合評価として大変優れていると判断される。
障害のある児童生徒のキャリア教育の充実に関する研究（ア、イ）（令和６年度～令和７年度）	A＋	キャリア・パスポートを単なる書類作成にとどめず、児童生徒が経験を振り返りながら主体的に進路や生き方を選択する教育的プロセスとして位置付けた点に本研究の大きな意義が認められる。質問紙調査や事例調査、インタビュー調査を通して、キャリア・パスポートについての特別支援学校における実態や指導上の工夫、個別の教育支援計画との関連を具体的に整理しており、研究目的は十分に達成されている。また、障害のある児童生徒の意思決定支援の観点からキャリア設計を論じた先進的研究であり、合理的配慮における意思表明の支援者間での継承や児童生徒の社会参加の促進にも資する実践的成果である点も高く評価できる。 以上より、総合評価として大変優れていると判断される。

○障害種別特定研究

肢体不自由教育におけるＩＣＴの活用に関する研究（イ）（令和５年度～令和７年度）	Ａ＋	本研究は、肢体不自由教育におけるICT活用の現状と課題を体系的に整理し、教育現場が主体的に課題解決と一層の推進に取り組むための実践的知見を提供した点で高く評価できる。また、障害の状況に応じた個別のフィッチングの重要性を踏まえ、多くの教員が活用可能な具体的事例を提示していることは、個々の授業の充実に資するものである。さらに、「ICT活用実践事例集」及び「ICT活用ハンドブック」では、「4観点9項目」に基づきICT活用のねらいや活用場面が分かりやすく整理されており、教員が実践に活用しやすいとともに学校経営の視点からも意義深い。授業動画等を含めた成果の提示は実践の具体的イメージを喚起し、学校現場のICT活用推進に大きく寄与する内容となっている点も高く評価できる。 以上より、総合評価として大変優れていると判断される。

○研究の主たる類型　　…ア　国の特別支援教育政策の推進に寄与する研究
　　…イ　教育現場等の喫緊の課題解決に寄与する研究